
L I F E ～僕らの変わり行く運命～

修羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L I F E 僕らの変わり行く運命

【Nコード】

N 6 3 1 3 P

【作者名】

修羅

【あらすじ】

ある平凡で普通の日々を送る双子の秋野 仁くあきの ひとしと
秋野 恭くあきの きょうくが送る、日々を描いた物語。

運命の答え（前書き）

この小説は15歳未満にふさわしくないものが含まれています。
心臓の弱いかたやお子様はご遠慮ください。

運命の答え

ある朝、僕、秋野 仁<あきの ひとし>はいつもと変わらない場所
所で起きた。

そこで、声がした。

あつ、姉様おはよう。と

僕も言った「兄様おはよう。」

兄様とは、双子の兄の秋野 恭<あきの きょう>のことである。

いつもの様に準備を済ませて僕は学校に行った。

そして、学校で僕らの運命を変える出来事があった。

その出来事は、あるクラスメイトが持ちかけてきた「ゲーム」への
参加をしないか？と言う事であった

そのクラスメイトの名前は「元島 悠河<もとじま ゆうが>」だ。

そして彼は「ゲーム」について説明を始めた。

その「ゲーム」の内容とは、彼が言う人物を殺せばいいだけの事だ。
だが、その際に誰に見られると報酬金額が下がる。

そして、彼はさらに言った。現金でなく、ブラックカードでもいい
ぞ。と

僕らは現金よりもカード派なので、そっちを選んだ。

さらに「ゲーム」の対象の人物を殺せば、一人につき1万をプラス
してやる。どうだ？

僕らはそれを躊躇なく、OKした。

これを境に僕らの運命は変わって行くのだった・・・

運命の答え（後書き）

前作をすこし変えた作品ですが、読んでくれればいいです。

戦慄のゲーム

僕はゲームの説明を聞く為に倉庫へ向かった。

向かった先には、元島と同じクラスの園崎たけるくそのさき たけるくがいた。

そして、彼は説明を始めた。

「まずは、3人で班を組んで対象にする人物を3人の内1人に決める。話はそれからだ。」と彼が言った。

3人の人物とは、1人目は1組の「半田」と2組の「芳野裏」と4組の「宮坂」と言う人物だ。

僕は1組の半田を選んだ。

そうして、僕らの「半田暗殺計画」が練られたのだった。

まずは、銃で撃つ、と言う作戦だ。

だが、それでは、銃声が聞こえるので拒否された。

そして、数時間後・・・

この作戦で行く事にした。

その作戦とは・・・

鈍器で倒すと言う作戦だ。

そして、それを実行した。

彼は廊下を歩いていていた。

そこを「ドガッ！」と殴った。

廊下に血が滲んでいる。

僕らはどうするかを考えた・・・

戦慄のゲーム（後書き）

2 話はかなりグロイ？感じですよ。

3 話はかなり怖いですよ。

お楽しみに！！

逃げ行く僕ら・・・

廊下に血が滲んでいた。

僕らは死体を処分するために焼却炉へと向かった。

そして死体を投げ込んだ。

その時、焼却炉の中から声がした。「熱いよ、熱いよ、助けて」と言う声がして僕らは怖くなった。

そして気付いた時には僕らは、走っていた。

その死体を投げ込んだ瞬間を見られているとは知らずに…

僕らが去った後に一人の人物が水の入ったバケツを持ってきて焼却炉に掛けた。

そして、焼却炉に投げ込まれた人物は助かった。

彼らはその出来事を報告しに職員室に向かっていった。

それから30分後：遠くから声がした。

「いたぞ、殺人犯だ 捕まえろ！」と、声がした。

その声の主は職員の人と警察だった。

そいつらは、僕らの方へ走ってきた。

僕らはずっとずっと逃げた。うんと遠い場所へ…

走りっぱなしから3時間は過ぎていた。

僕らが着いた場所は見知らぬ街だった…

恭が叫んだ「誰かいませんかー！」と、誰かが気付くまで叫んでいた。

その時、一つの家のドアが開いて中から声がした。「早くお入りと

ー
僕らは、訳も分からないままその家に入った。

入って鍵を閉めると同時に城の衛兵の声がした。

この辺に不法侵入者がいるはずだ。

気がつくと家にいたはずのお婆さんの姿が消えていた。

一体この街は何だろう…と感じた。

逃げ行く僕ら・・・（後書き）

4話では、お城の中でのお話です!!
3話描くのもしんどかったです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6313p/>

L I F E ~ 僕らの変わり行く運命 ~

2011年1月4日03時25分発行